

幼保一体化 相次ぐ反発

保育所に子供を入れたくても定員が満杯で入れられない「待機児童」問題。その打開策として幼稚園と保育所を一体化した「こども園(仮称)」の制度化に向けた議論が国の専門家によるワーキングチーム(WT)で行わ

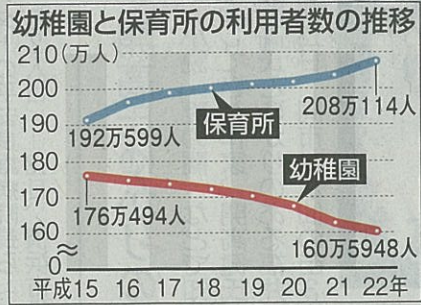
れている。しかし、サービス低下や値上げへの懸念などから幼稚園、保育所の双方が反発。国は既存施設の存続も認める折衷案を提示するなど、一体化への道のりは険しい。
(蕎麦谷里志、写真も)

平成19年に誕生した横浜市港南区の認定こども園「ムロノキッズ」。「こども園」と名前は似ているが別物で、幼稚園と保育所が併設、それぞれ532あり、こども園のモデルケースとして注目されている。

午後2時。幼稚園が終わると、帰宅する子供に交じり、一部は同じ敷地内にある保育所へと帰っていく。

「たいたい」。保育所に戻ると、保育士が「お帰りなさい」。ここから親が迎えに来るまで、子供たちは保育所で生活する。

幼稚園の高度な教育が受けられ、保育所のように長時間預けることも可能。利用者にとっては「いいとこ取り」の制度で、評判はおおむね良好だ。



似て非なる施設…険しい道

している。保育所に子供を預けている会社と同僚からは「つらやましがられます」と話す。厚生労働省の調査でも利用者の75%が既存施設から認定こども園への移行を「評価」している。

ムロノキッズでも幼稚園児は外部から搬入される給食を食べるが、保育所の子供は園内の調理室でつくった食事を食べる。同じ建物内でも保育所部分だけ防火加工が施されている。

こうした弊害をなくし、完全に一体化させるのが「こども園」構想だ。しかし、この構想に幼稚園や保育所関係者は反発。国は今年16日、こども園とともに

幼稚園、保育所も存続させる案など4案をWTに追加提案した。採択される案によって一体化は大きく後退することになる。幼保一体化に反発が出るのはなぜか。全日本私立幼稚園連合会の北條泰雅副会長は「一体化で教育の質が保てるか疑問だ」と語る。幼稚園と保育所では施設の設置基準が違ふ。例えば運動場。幼稚園は設置が必

サービス低下、値上げ懸念



幼稚園が活動中の時間も0～2歳の子供は保育所で生活。お昼寝の間も保育士が寄り添う—横浜市港南区の認定こども園「ムロノキッズ」

急ぎすぎて良い部分失わせるな

幼保一体化は利用者のニーズを考えれば目指すべき方向だろう。しかし、国のスケジュールは急ぎすぎの印象がある。また、こども園がどのような形になるのかが分からない中、一体化ありきで議論が進んでおり、関係者が不安に思い、反対するのは当然だ。

保育所は「福祉」をベースに、幼稚園は「教育」をベースにこれまで60年以上にわたって培ってきたノウハウがある。これらは就学前の子供の発達と教育が一体的に考えら

れた、世界に誇るべき制度だ。一体化を急ぎ、これらの良い部分が失われるようなことがあってはならない。また、保育所への公費助成

は幼稚園の10倍ともいわれている。一体化した場合、質を下げないためにこども園に保育所並みの助成を行うのであれば、財源の確保も重要な問題だ。

神長美津子

東京成徳大子ども学部教授 (幼児教育学)

予算が伴わなければ「子ども手当」のように、中身が伴わない制度になり、幼保一体化は絵に描いたもちになってしまふ。「幼保一体化」の問題は国民の関心が高い。国民的な議論に広げて、幼児教育・保育のあり方を検討すべきだ。